

55歳のつづき

在京飯田高校同窓会の幹事学年は55歳。今年が高38回生が担当します。働き盛りの中、そろそろ自らのゴールを描き始める年代。同窓生たちはどんなことを考えているのでしょうか。

高38回生から

■第二のふるさとの街で

卒業後、親戚をたよって上京し、住み始めた街で、学び、仕事と子育てに奮闘してきた。産休復帰からの20年余は寝不足と過労の日々。乗り越えられたのは子供達との笑顔とまわりの方々のサポート、仲間達のおかげと心から感謝している。居を構えて28年余、子供達のふるさと・私の帰る場所もこの街になった。地域社会とのつながりが、人生を楽しく豊かにしてくれるのだと実感している。

この春、成人した子供達はそれぞれの道を歩み始めた。これからは恩返し的气持ちをもつて暮らしていきたい。

社長として、経営と社会貢献活動に励む日々は最高に楽しい。埼玉県の小中学校での講師ボランティアは学びの時。2年前から始めたウォールトランポリン（競技用

■インドネシアにて

55歳になったとたん、インドネシアに赴任を命じられ、東京に家族を残しつつ、ジャカルタでの生活を送ることとなりました。

この歳での海外赴任なので定年までに日本に帰れるかどうか……。ほとんど日本語も英語も通じない中で、コミュニケーションの大切さを痛感しながらも、現地従業員と工場運営に悪戦苦闘の日々です。

生活面で苦労するのは、水道水がそのまま使えない、食べたいものがすぐ手に入らないこと。今さらながら、日本の治安の良さ、日本食の安全性・多様性・美味しさの有難みを感じています。

高校時代は陸上競技に明け暮れ、インターハイに出場。おかげで大学でもインカレと箱根駅伝（箱根は補欠が精一杯だったけど）を経験させてもらいました。

もうあの頃のように走る体力はありませんが、新しいことにチャレンジする機会を頂いた今、前向きに走り続けて行きたいと思っています。

●藤澤秀水 阿南町出身 化学メーカー・インドネシア法人勤務

トランポリンで壁を駆け上がるスポーツ)では、女性最年長プレーヤーとしてチャレンジを続けていこう。

大人になった子供達とのちよっと贅沢な旅を楽しみに。55歳! 更年期も乗り越えて、私の人生の本番はこれからなのかもしれない。

●安藤ちづる 松川町出身 会社経営

■早朝からテニス

最近の楽しみは週末の朝7時からのテニスサークル。ウィークデーを多忙に過ごして週末ここにテニス好きが集う。

思えば、私の半生は朝からスポーツをすることが多かった。ものごころついた頃には冬の休日と言えば暗いうちから『大休み』や『千人塚』のスケート場に通ったものだ。小5の時に通い始めた剣道教室は、丸山小学校の体育館で日曜日の朝6時からだった。竹刀で叩かれたら痛いし、冬は凍りついた床に裸足でのぞむ修行のようなスポーツに喜びはなかったのに、終わってみれば皆勤賞だった。中学のバレー部は毎朝7時から。スパルタだったことが今は懐かしい。朝練を禁じられた高校の3年間を除けば、早朝からスポーツをしてきた。

さて、この先何歳まで続けられるのか。そのために何をすべきか、考えながら今日もプロテインを飲む。

●本野(旧姓・塚平) 恵理香 飯田市今官町

■原点回帰してみようか

「あと5年働いたら定年退職」と思っていたら、私たちの代には定年が65歳になるという。いや、それは無いよ。60歳までと思って勤めてきたのに。追加で5年もなんてモチベーションが保てそうにない。

仕事も家事も子育てにも奔走してきた。教員ではないけれど学校という場所で、子供たちと関わる仕事は何とも面白く、やりがいがある。

しかし、である。30年以上勤めてきて、次のステージが見えてくる頃なのに。体力にも不安があるし、ICT化の波にもさらわれそうだし。やはり、予定通り60歳で退職しよう…。さて、セカンドライフは何をしようか。それがどうしたものか、思いつかない。昔どこかで聞いたようなセリフだな。まだ、何かやれそうな気はするのだけれど。

後夜祭、夕暮れの校庭の泥水の中を「一所懸命」ひたすら走り回った高3の自分に聞いたら、その答えが見つかるだろうか。

●市川(旧姓・北澤) いづみ 飯田西中出身
公務員(公立学校事務)

■55歳からの挑戦

先日のニュースで、文部科学省がChatGPTなどの生成AIについて、教育現場での活用に関する指針を作成すると伝えられました。

わたしは文系の大学を卒業後、今日まで33年間総合スーパーの食料品販売部門に身をおいていることもあり、つい先月までAI技術を意識することはほとんどありませんでした。

そんなわたしでしたが、今月から関連会社に出向となり、公共施設や大型商業施設の空調設備を取り扱う仕事に就いています。その設備案件とはクラウドからの指令によって空調設備を自動制御し、かつ、AIの予測に基づいた効率的な運転によって施設の空調に必要な電力消費を削減するというものです。

このような技術を世に広めていくため、関西にある大学でリスクリング講義をうけることも決まりました。昭和の時代ならリタイヤしてもおかしくない年齢から、新しい知識を求めて自分が勉強を始めることになるとは!?

大きなことをいうようですが、地球の未来のために気を引き締めて頑張りたいと思います。

● 青山仁美 飯田市出身 小売業勤務

■想像した55歳の自分ではないけれど

思うままの眩きなので失礼にきこえたら何卒ご容赦いただければ幸いです。

とある文庫を読んでいたら、ある方のことばである「百年経てば、みんな死んでいるから」というフレーズが飛び込んできた。

そう思うことで（自分が人々から嫌われたくないという執着を断ち切れ、こころがスッキリと整えられることができるのだという。

このことばが、なぜか勇気を与えてくれた。

仕切りなおしの55歳の宣言を眩きます。

守るべき人、守るべきことを決めて決めたことに従おう。

仕事には誠実に向き合いたい。

55歳になってようやく会得できるか。あまり自信がない。

私は今、ある病気です。

ご迷惑をおかけしているのにもかかわらず状況を理解して支援してくれている友達、妻と娘と娘婿殿、支えてくれるみなさんに、こころから感謝しています。

青臭いこと眩きますが、今を生きてその日を掴みながら過ごしたい。

● 山田光夫 飯田東中学校出身 保険会社勤務

■飯田に帰りたいなあ：

「こころざしをはたして いつの日にか帰らん」ご存じ「ふるさと」の一節です。

大学入学と共に上京した時はそこまでの思いはなかったけれど。年を経ると共にこの歌詞がやたら身に沁みます。

長期休暇には実家に顔を出すようにしていましたが、コロナによりそれもなかなかしにくい状況が続いていました。私が志を果たすって、どうなったらいんだらうかって考えると、家族と幸せに過ごすことなのかなあ。親は選べないけど、妻は自分で選んだ（偉そうですな…）人だから大切にしていかなないといけないなって改めて思っています。それと共に子供たちが社会人になるまでしっかり守ってあげる事で志とは言わなくても少なくとも役割を果たせるのかなって思っています。

転勤の多い仕事だったので（言い訳です）連絡も疎遠となってしまうましたが、この機会に改めて皆様との縁が結び直せたら嬉しいなって思っています。

●宮澤隆文 竜東中学校出身
株式会社ニューオークボで生バスタの販売を行っています

■ひととの繋がりかたからも

55歳の皆さん、我が学年がホストした留学生カースティン・ホーガンさんを覚えていますか？ 仲良くなった私に、次はあなたの番と言ひ彼女は帰国。そんな理由で渡米、英語や文化の壁に悶絶するも素晴らしいホストファミリーに恵まれ、赤の他人の異国人同士なのに本当の家族として心が通いました。ご恩にどう報いれはと問うと、ダッドとママは「日本でああなたの周りの人々を助けて。それが巡り巡って私達への恩返しになるから」と見送ってくれました。

以来ずっとその言葉を胸に、ほそほそとボランティア、留学生支援活動等続け、この春には日本に避難されたウクライナ人お二方の結婚式の実現をお手伝いできました。

人々の頭上に爆弾を落とすのも、困難にある人々に手を差し伸べるのも人間。人間の二面性に苦しくなることもあります。転勤族の妻としての流浪生活30年の支えも、各地で得た心温かい友。これからも人間とは善き存在と信じ、私を生かしてくれる人々に報えるよう、一所懸命でありたいと思います。

●鈴木（旧姓・内田）香津 緑ヶ丘中学校出身
不登校児支援スクール講師